

[誤] 6.中性子線照射試験による評価方法

通信装置においては、ソフトウェア発生後の故障モードおよび対策効果は粒子線の種類によらず同等である。装置の信頼性試験は高速中性子を照射して発生するソフトウェアを再現して実施する、中性子照射試験を推奨する。

中性子線照射試験の具体的な方法は、[JT-K130]に従う。[JT-K130]には、中性子照射試験設備の構成、試験系、EUT の動作と試験手順等について記載されている。

[JT-K130]による中性子照射試験の結果をもとに信頼性基準に適合するかどうかを判定するためには、[JT-K138]に従って3種類の信頼性(AR, SR, MR)を求める。

試験設備における、EUT への中性子照射量の評価位置と信頼性評価方法について付則1に示す。

ユニット構成の追加・変更があった場合には装置全体の試験を再度実施するかわりに付則2の方法を適用してもよい。

SR 評価のための試験条件および評価方法の詳細については付則3に従う。

制御・運用機能の試験内容および確認タイミングに関しては付則4に従う。

[正] 6.中性子線照射試験による評価方法

通信装置においては、ソフトウェア発生後の故障モードおよび対策効果は粒子線の種類によらず同等である。装置の信頼性試験は高速中性子を照射して発生するソフトウェアを再現して実施する、中性子照射試験を推奨する。

中性子線照射試験の具体的な方法は、[JT-K130]に従う。[JT-K130]には、中性子照射試験設備の構成、試験系、EUT の動作と試験手順等について記載されている。

[JT-K130]による中性子照射試験の結果をもとに信頼性基準に適合するかどうかを判定するためには、[JT-K138]に従って3種類の信頼性(AR, SR, MR)を求める。

なお、[JT-K138]の表 A.1 節に記載されている各加速器施設の代表的加速係数は、ニューヨークにおける自然環境の平均的な中性子数を基準としており、日本(東京)においては自然環境の平均中性子数が 0.64 倍であることを留意する。(JT-K.124)の表 6.1 参照)

試験設備における、EUT への中性子照射量の評価位置と信頼性評価方法について付則1に示す。

ユニット構成の追加・変更があった場合には装置全体の試験を再度実施するかわりに付則2の方法を適用してもよい。

SR 評価のための試験条件および評価方法の詳細については付則3に従う。

制御・運用機能の試験内容および確認タイミングに関しては付則4に従う。